

さがえ屋通信

お客様とのご縁を紡ぐおせんべい

長月
2023.9.12

煎餅工房さがえ屋
直販事業部
山形県東阿賀市
中央五穀団地1-6
TEL:0120-83-8324
FAX:0120-05-8324



さがえ屋通信
おせんべい
のページへ

第20回 四ヶ村の棚田 ほたる火コンサート 夏の夜に オカリナ響く 四ヶ村の棚田

ネット店青柳のカメラ片手にご近所旅
(2023年8月5日 山形県大蔵村四ヶ村の棚田)

スケールは東北随一、 四ヶ村の棚田

山形県大蔵村の山間にある豊牧、滝の沢、沼の台、平林の4つの地区は総称して四ヶ村と呼ばれています。四ヶ村には約120のヘクタールにも及ぶ広大な棚田があり、平成11年には日本の棚田百選にも選ばれています。厳しい気候風土の中、四季折々、さまざまなる表情を見せ、日本の原風景ともいえるたたずまいです。

夏の風物詩

ほたる火コンサート

毎年8月第一土曜日に開催されるほたる火コンサートは「四ヶ村の棚田」の夏の風物詩。山肌をバツクにし、すり鉢状に広がる棚田は大自然が作ったコンサートホールです。リハーサル時はまばらだった観客も開演時には満員でした。川のせせらぎ、風の音、オカリナやバイオリンの音色、観衆の拍手が自然と一体となり、棚田全体に広がります。またオカリナの澄んだ音色で演奏された「コンドルは飛んでいく」にはとても感動しました。

幻想的な灯りは 忘れられない思い出

ほたる火はペットボトルとロウソクで手作りされたもの。地元の方々で準備されたようです。その数約120の本。田んぼの畔や道路沿いに等間隔に設置されていました。コンサートも中盤を迎え夕暮れが近づいたころ、ほたる火への点火セレモニーです。山伏のホラ貝を合図に子どもたちや関係者がロウソク一本一本に火を灯していきます。日が沈み夜の闇が広がるほど、ゆらゆらと幻想的に輝くほたる火。この特別な空間で、美しい調べを奏でる演奏者たち。最後は、演奏者への拍手喝采でコンサートの幕が閉じました。素晴らしい音色と棚田の美しさは忘れられない思い出です。
**遠くからお越しの際は
肘折温泉もおすすめ**
遠くからお越しの際は肘折温泉への宿泊もおすすめ。約120年の歴史を持つ温泉宿は、質素ですがそこがまた洪くて素敵です。以前私も訪れましたが、温泉街での朝市を楽しむのも一興です。





秋風が吹くと 芋子汁が 食べたくなる！

野外で食べる芋子汁は おいしさ3割増し！

山形県の秋の風物詩「芋煮会」。芋煮会とは河原や広場に鍋や食材を持ち寄り、芋子汁（芋煮）を食べながらワイワイと楽しむ行事です。この時期になると各スーパーでは芋煮会セットとして、食材はもちろん、鍋や薪、ゴザなどレンタルしてくれます。

私が山形県外に住んでいたころ、職場のみんなを誘って十数人で芋煮会を計画しました。まず困ったのが大鍋の準備！そして薪。山形県内ではどこにでもあった物がない！そんな思い出があります。職場のみんなまで楽しんで思い出は思い出に忘れられません。

秋の気配を感じたら 芋煮会に挑戦しよう

爽やかな秋空のもと、川のせせらぎを聞きながら食べる芋子汁はなんとも言えないほどおいしいものです。ちよつとぐらい失敗した方が楽しい！野外料理の魅力ってそういうところなのではないでしょうか？今は昔と違いアウトドア用の調理器具も充実していますので、家族や友達を誘って、今まで作ったことのないレシピに挑戦しませんか？レッツ芋煮会！



【芋子汁レシピ 5人分】

【材料】里芋500g、牛バラ肉200g、コンニャク1枚、長ネギ2本、ゴぼうし1/2本、しめじ1パック、水1200cc、醤油80cc、みりん50cc、酒50cc、砂糖大さじ1

【作り方】里芋は皮をむき一口大に、牛バラ肉は食べやすい大きさに切る。ゴぼうしは食べがきにし水に浸し大きさを抜く。コンニャクは食べがきすい大きさに手でちぎる。長ネギは斜め切りにしめじは石づきを取りほぐします。

鍋に水を入れ、里芋、ゴぼうし、コンニャクを入れ火にかけます。里芋が柔らかくなった後、砂糖、みりん、酒、醤油を入れる（味は最後に決めるので醤油は少なめに）。しめじと牛バラ肉を入れアックを取る。味を確認し薄ければ醤油を入れ調整する。最後に長ネギを入れしんなりしたら出来上がり。山形の秋の味覚「芋子汁」を存分にお楽しみください。残った汁に、カレーのルーとうどんを入れてカレーうどんでしめるのもおすすめです。

あとがきに代えて

うちの奥さん、日頃はお堅い仕事をしていますが、うちのお部屋着や靴下などもお気に入りの朝、奥さんが慌てて探した物をしておりました。私のウサギの靴下がありません！！(；´ω´)

奥さん：「お母ちゃん！ここにあったウサギの靴下知らない？」

お義母さん：「この靴下は違うのかい？」

奥さん：「それはクマ！」

隣の部屋から聞こえる親子の微笑ましい会話。青柳家の楽しい休日が始まります。

ネット店
青柳の